ライティングスペースデザインの視点から

勝井 三雄、寺山 祐策、陣内 利博
武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科

Abstract

本発表は、武蔵野美術大学視覚伝達デザインコースにおけるライティングスペース (**writing space**) デザイン領域の中からの卒業制作を発表する。

この領域はコンピュータの登場によって、ヴィジュアルコミュニケーションが従来の主としてグーテンベルク以降のグラフィックを中心にしたものから、身ぶり、声による会話、手書きから印刷による複製、デジタルメディア、ネットワークにまで拡張したものと捉えている。また、それらを総合的に人間の記述の時空間として、デザインの対象とみなしている。

この授業の試みの中から、漢字の生成について成澤豪が、会話とそれが記述されることとの関係について斎籐美雪が、各々ポスター及び書籍形式で制作したものを発表する。

またコンピュータの記述の問題について国際メディア研究財団の古堅氏の指導によって、1998 年度にプログラミングベースとデザインに関するワークショップを行なった。従来のタイポグラフィ、ダイヤグラム、地図といった記述にプログラムが加わることによって生じる新たな意味を模索するものである。作品は加藤賢策、杉本秀樹、尾崎行欧、谷口まどか、岩元美奈子、大村麻紀子、峯島恵里らによる。この経験によって私たちは従来のアプリケーションを使用しての制作から、計算あるいはアルゴリズムによる「経験」「感覚」の記述に新たな可能性があることを、そしてそれが大変興味深いテーマであることを発見した。今後さらにライティングスペースにおける歴史的蓄積をコンピュータの記述を通して再構築することを試みたいと考えている。